

WAKAYAMA AZALEA ROTARY CLUB



Weekly Report

VOL.13 No.17 TOTAL 536 平成 22 年 11 月 27 日 第 554 回例会

【例会日】 毎週月曜日 12:30~13:30

【例会場】 和歌山市湊通り丁北2-1-2 アバローム紀の国

【事務局】 和歌山市雑賀屋町52 南方ビル2階 (〒640-8249)

TEL073-435-3470/FAX073-435-3472

E-mail: wa-az-rc@naxnet.or.jp

会長/田原サヨ子 [会報委員]

副会長/安宅 浩一 ○北畑 充香 ○石垣 秀幸

幹事/野村 伸 石橋 瑳 三木 民生



2010-11年度
国際ロータリーのテーマ

地域を育み、大陸をつなぐ

地域を育み、大陸をつなぐ

RI会長 レイ・クリンギンスミス

2010-11年度

アゼリアロータリーのテーマ

『行動するロータリアンを目指そう』

〈本日の例会〉

■ 第 554 回例会 11 月 27 日 (土)

☆ 献血活動移動例会

場 所: 慶風高等学校 (田原学園) 和歌山支援センター

例会時間: 12:15~13:30 *献血は10:00~16:00

☆ 外部卓話 『献血について』

和歌山県赤十字血液センター 献血推進課長 吉田 肇 様

〈次回のお知らせ〉

■ 第 555 回例会 12 月 6 日 (月)

☆ 外部卓話

地区ロータリー財団委員長 岩本行弘 様

財団奨学生 田中祐美 様

☆ 年次総会 (13:35 ~ 13:40)

〈前回の例会記録〉

- ロータリーソング 日も風も星も
- ゲスト紹介 和歌山県農業協同組合中央会
専務理事 山崎龍平 様
地域振興部長 西川 均 様
- ビジター紹介
- 出席報告 会員数44名
本日の出席 (11/15) 31名 70.45%
前々回修正出席 (11/1) 35名 79.54%
- メイクアップ 役員及びクラブ行事へ 5名

〈四つのテスト〉

言行はこれに照らしてから

- I. 真実かどうか
- II. みんなに公平か
- III. 好意と友情を深めるか
- IV. みんなのためになるかどうか

●市内9ロータリークラブ例会情報

クラブ名	日時	内 容
和歌山北	11月29日(月)	クラブフォーラム「第2回IDM発表」
和歌山	11月30日(火)	「帰国報告」2009-2010年度長期派遣交換学生
和歌山サンライズ	11月30日(火)	外部卓話「レインフォレストアライアンス認証コーヒーとは」
和歌山東南	12月 1日(水)	クラブ総会 上半期活動報告①
和歌山西	12月 1日(水)	
和歌山東	12月 2日(木)	年次総会「次々期会長、次期副会長、次期理事選出」
和歌山城南	12月 2日(木)	年次総会~2011-2012年度 理事・役員選出~
和歌山南	12月 3日(金)	
和歌山中	12月 3日(金)	

会長報告



会長 田原サヨ子

和歌山県農業協同組合中央会 山崎専務様、西川部長様ようこそおいで下さいました。本日の卓話よろしくお願いたします。

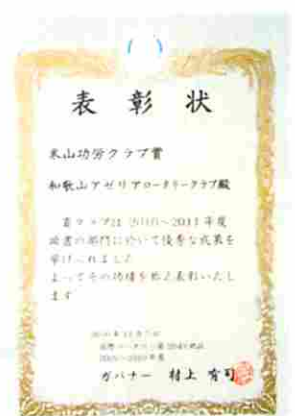
今月はロータリー財団月間です。ロータリー財団は、1917年アメリカ合衆国ジョージア州アトランタで開催された国際大会において、アーチ会長より「世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でより良きことをするために、基金を作ろう」と、提案があり、1928年国際大会でロータリー財団と名付けられました。2017年に創立100周年を迎えることを踏まえ、ロータリー財団管理委員会は、財団が第2世代に移行するための「未来の夢計画」を立案し、2013~2014年度までに完全に導入されることを目指し段階的に実施される予定です。

次に市内10クラブのロータリー会長・幹事会を代表して、アバローム紀の国で開催された「花いっぱい推進協議会」10周年記念式典に参加させていただきました。そして「継続は力なり」と、実感した次第です。

2009~2010年度村上ガバナーより、我がクラブが米山功労クラブ賞をいただきました。事務所に掲示しておきますので、どうぞご覧ください。

次にガバナーからの伝達事項です。阪南ロータリー・クラブより申請のありましたRIからの脱

会に関して、2010年11月2日付けにて国際ロータリー細則第3.010.節により国際ロータリー理事会にて受理されました。地区からクラブが1つなくなったということですから、寂しくなりました。本当に残念です。 本日の卓話は以上です。



幹事報告



幹事 野村 伸

- ・昨年度村上ガバナーのまとめの冊子が届きました。回覧いたします。数冊予備がありますので、欲しい方は事務局まで。
- ・献血移動例会の出欠の案内をファックスしておりますので、お弁当の手配がありますのでお返事お願い致します。
- ・次週22日は休会です。27日(土)が献血移動例会です。お間違えのないように。また29日(月)も休会です。
- ・ガバナー事務所より地区大会お礼状が届いておりますので回覧します。
- ・はいらいとよねやま回覧します。
- ・奄美地方豪雨災害義援金のお願いを前回の例会で致しました。22000円の寄付が集まりました。

委員会報告

◎親睦活動委員会

小形みちるの会員



秋の日帰り親睦旅行のお知らせ！
行き先 「なんばグランド花月」と
スイスホテルでの食事
日にち 2010年11月21日 日曜日
集合 高松8:30 和歌山市駅雄の橋8:45 JR
和歌山駅東口9:00

以上です。遅刻のないようお願い致します。

つづいて、12月20日月曜日の家族会(クリスマス会)企画案について

各部会による仮装劇など各部会のリーダーさんに親睦委員の世話人がつき協力しながら、他に口外しないよう当日まで進めて頂きたいと思っております。豪華景品を御用意させていただきますので楽しい一日が過ごせますよう、よろしくお祈りいたします。

◎社会奉仕委員会

松本良二の会員



先週にもお伝えいたしましたが、11月27日の献血活動のご協力よろしくお祈りいたします

◎国際交流委員会

田端順造の会員

過日済州島のクラブを視察・交歓したことについての詳細は、本日配付された週報に掲載してありま



すので、ぜひ目を通しておいてください。

別件ですが、私の会長年度のときから交流の途にあった、台北サミットRCとは、昨年3月に当方から訪問して以来、アクションを起こしてはいましたが、具体的な反応がないままでしたが、既にお知らせしていますように、一度当クラブを訪問したいとの連絡がありました。

12月6日の例会にメーキャップということでの訪問を受諾いたしました。訪台時にお世話になりましたので、来和時にはそのお返しをしたいと考えています。追ってスケジュールをお伝えしますので、食事会への参加等皆さんのご協力をお願いいたします。

外部卓話

『本県農業の現状と課題』



和歌山県農業協同組合中央会 専務理事 山崎龍平 様

本日はアゼリアロータリークラブにお招きをいただき、県内農業の現状や私達JAグループの取り組みについて紹介をさせて頂く機会を得ました事にお礼申し上げます。以下、資料に基づき本県農業の現状、国の農政の動向、JAグループの取り組みについて説明を致します。

1. 和歌山県農業の現状

(1) 県内農業の特徴

本県の農業算出額は1,079億円(H20年度)で、全国シェアは1.2%、果実に限れば8.8%と青森県に次いで全国2位を誇る。本県は果樹を核とした園芸農業県であり、農業算出額の約60%を果実が占めており、米は7.7%に過ぎない。

(2) 農家の現状

本県の主業農家の割合は35%と全国平均に比べ13%高いが、労働・技術集約的な園芸農業が中心であるため、経営面積2haを超えるような大規模農家は少ない。

全国的に農業者の減少と高齢化が問題視されているが、本県においても平成12年から平成17年の5年間にかけて農業就業人口は12%減少しており、その内、65歳以上の比率も50%へと5%増加している。また、農業就業人口のうち54%を女性が占めている。

(3) 農業所得の現状

平成10年から平成21年の主要果実の販売単価の推移をみると、桃はほぼ横ばい。ミカン、柿、は穏やかな低下傾向、梅は半減という結果になっている。一方、農業生産費（生産コスト）は上昇傾向にあり、農家所得はほとんど伸長しておらず、果樹農家でもコスト割れの厳しい状況が続いている。

(4)水田の農業の実態

本県の米作農家は農家全体の約半数（55.4%）あるものの、作付面積は極めて小規模であり、稲作主体の経営を行う農家はごく少数であり、JAの米集荷率は約6.4%と低く、飯米農家と直売農家が大部分を占めている。そのため、県内の米自給率は61%となっており、本県は米の消費県といえる。

(5)耕作放棄地の状況

本県の耕作放棄地は平成2年の2.284haから平成17年には3.647haへと増加しており、耕作放棄地率は12.1%と全国平均9.7%を上回っている。

また、平成20年の県内鳥獣害被害金額は約3億2,600万円となっており、鳥獣害被害の深刻化が営農意欲の喪失等につながり、耕作放棄地が増加する一因になっている。

農地の流動化は、全国的な課題であり、農地の面的集積を進めるための各種制度が導入されているが、それらは水田地帯等を想定した制度であるため、農地の流動化が計りにくい樹園地が過半を占める本県では活用に課題も多い。

2. 国の農政の動向

(1)新たな食料・農業・農村基本計画の策定

本年3月、今後10年間の農政の基本方向を示す「食料・農業・農村基本計画」が、閣議決定された。その中には、食料・農業・農村政策を日本の国家戦略として位置づけることが明記されており、今後10年間でカロリーベースの食料自給率を50%に引き上げることなどが掲げられている。

しかしながら、計画実現のための工程表作成やそれに伴う予算措置に加え、個別所得補償制度の創設により、本県に必要な選果場等協同利用施設にかかる補助金が大幅に削減されていること等課題も多く含まれている。

(2)WTO農業交渉、TPP参加の議論

WTO農業交渉が長期にわたる中、世界の食糧需給の逼迫基調への転換や飢餓・貧困の拡大、地球温暖化といった新たな地球規模の課題が深刻化し

ており、改めて多様な農業が共存できる仕組みの構築が必要である。今、新たな課題として、米国・豪州など9カ国によるTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加が検討されているが、特にTPPは関税撤廃の例外を認めない交渉であり、締結されれば日本農業は崩壊的打撃を受け、関連産業等地域経済にも深刻な影響を与える。

(3)規制・制度改革の動き

政府の行政刷新会議において、JAや協同組合の組織・事業の根幹に関わる課題が検討されている。主な検討事項は、

- ①協同組合等に対する独占禁止法の適用除外の見直し
- ②一人一票制の見直し
- ③信用・共済事業の分離
- ④准組合員制度の廃止等となっており、国際的な協同組合原則を覆す内容を含んでいる等、到底容認できるものではない。

(4)JAグループの政策提言

JAグループでは、組合員は地域住民の意見を盛り込んだ「政策提言」を取りまとめ、政府や全政党に対し、その現実に向けた農政運動を展開している。

政策提案のポイントは

- ①農業の多面的機能に着目した農地を対象にした直接支払い
- ②所得補償を前提とした関税の大幅削減ではなく、重要品目については適切な関税水準を確保する等、食料安全保障の基本的考え方
- ③協同組合の活動や実践を支える制度の維持・強化などである。

3. JAの取り組み

(1)JAの状況

県内に10JAがあり、各地域に密着した事業・活動を展開している。

(2)組合員の状況

組合員数（正組合員約72千人、准組合員約91千人）は増加しているものの、正組合員が減少し、准組合員が増加している。

(3)県JA大会の開催

県JA大会は、3年ごとに開催し、県内JAグループの共通の意見を確認・決定するとともに、これを組織内外に表明するために開催している。昨年

の11月に第26回県JA大会を開催し、以下の4項目を重点実施事項として決議し、現在その実践に取り組んでいる。

- ①地域農業の新興と農業取得の向上。
- ②安心して暮らせる豊かな地域社会の実現
- ③組織基盤の拡充と組合員との結びつき強化
- ④協同を支えるJA経営の変革

(4)農業振興対策

地域の農業振興を図っていく方針となる地域農業振興計画を全JAで策定するとともに、担い手育成対策やJA出資型農業生産法人の設立や、JAによる農業経営の取組みを検討している。

(5)食の安全・安心対策

消費者への安全な農産物の提供を徹底するため、生産履歴記帳の徹底と生産工程管理手法（GAP）の導入、残留農薬自主分析の実施を基本とする、県産農産物「安全・安心」推進運動に取り組んでいる。また、低農薬・低化学肥料による栽培を行う特別栽培農産物の認証拡大にも取り組んでいる。

(6)農商工連携への取組み

農業と地元企業を結びつける「わかやま農商工連携ファンド（2億円を拠出）」を活用し、JAわかやまによる「ジンジャーエール」の発売や、鳥獣害対策で捕獲したイノシシと地元野菜で作るレトルトカレーの商品化を進めている。

(7)食農教育への取組み

JAグループにおいては、従来より、食だけでなくその食を作り出す農業の大切さや役割などの理解促進を目的に、各地域の特性を活かした小学生の農業体験や学校給食への地場産農産物の供給など「食農教育」に取り組んでいる。また、和歌山大学や信愛幼稚園との連携による新たな取組みを進めている。

(8)地産地消の取組み

ファーマーズ・マーケットや朝市等の産地直売所を地産地消の拠点として位置づけ、地域農業の振興や生産者と消費者の交流の場として取り組んでいる。また、地場産農産物を有効活用した地域特産加工についても、県内各地で取り組んでいる。

本県農業の課題等についてお話をさせていただきましたが、より一層の農業振興を図るには、極論すると「もうかる農業、将来性のある農業」をどう構築するかにかかっていると考えています。例えば、

農政に望むことは、長期的視点に立った一貫した「ぶれない」政策や地域特性を活かせる現場に近い政策の確立が必要であります。また、消費者との連携強化に向け、市町村ごとの「食育推進計画」の樹立による幼児・学童・大学生への食を通じたアプローチの強化や、機能性を生かした果物の消費拡大運動の各省連携による展開が必要であります。

一方、JAグループ自らも、消費を起点にした多様な販売対策や地域産業と連携した加工事業の展開、輸出対策の取り組み等を今後とも強化をしていきたいと考えています。

担い手対策も大きな課題であり、様々な形態の新規就農者に対する支援強化や、農業高校・県立農業大学・和歌山大学等との連携による新規就農者の発掘にも力を尽くしていきたいと思っております。

本日は、このような機会を頂きましたことに感謝いたしますと共に、引き続き農業・JAグループに対するご理解・ご支援をお願い致します。

S・A・A 報告 【3つの箱】

*ニコニコ箱

和歌山県農業協同組合中央会 専務理事 山崎龍平様より寄付いただきました。

田原サヨ子会員 和歌山県農業協同組合中央会の山崎専務様、ようこそおいでくださいました。本日の卓話宜しくお申し上げます。

福西正人会員 和歌山に来て早、2年と半年になりました。この度住居を変えました。週報に載せて頂いております。今後ともよろしくお願い致します。

松本良二会員 山崎さん本日卓話よろしくお申しします。

三木民生会員 掛下SAAより・・・コメントは書いてないのですが、多分・・・久しぶりということですか？

小形みちる会員 これから年末にかけていろんな催しが控えております。どうぞ風邪などひかないようお体の管理よろしくお申し致します。

山田 茂会員 川辺の第3期開発で家具のニトリが今月19日(金)にオープンします。会員の皆様も近くに行った際はチョットのぞいてやって下さい。

本日合計額 24,000円 今年度累計額 443,000円

*ロータリー財団

田原サヨ子会員 小形みちる会員 三木民生会員

本日合計額 16,000円

*米山奨学

田原サヨ子会員 小形みちる会員 三木民生会員

本日合計額 16,000円